

露出狂メス顔



基本CG10枚
本編195枚



終電間際で今日の就業時間もようやく
終わりを迎えた。

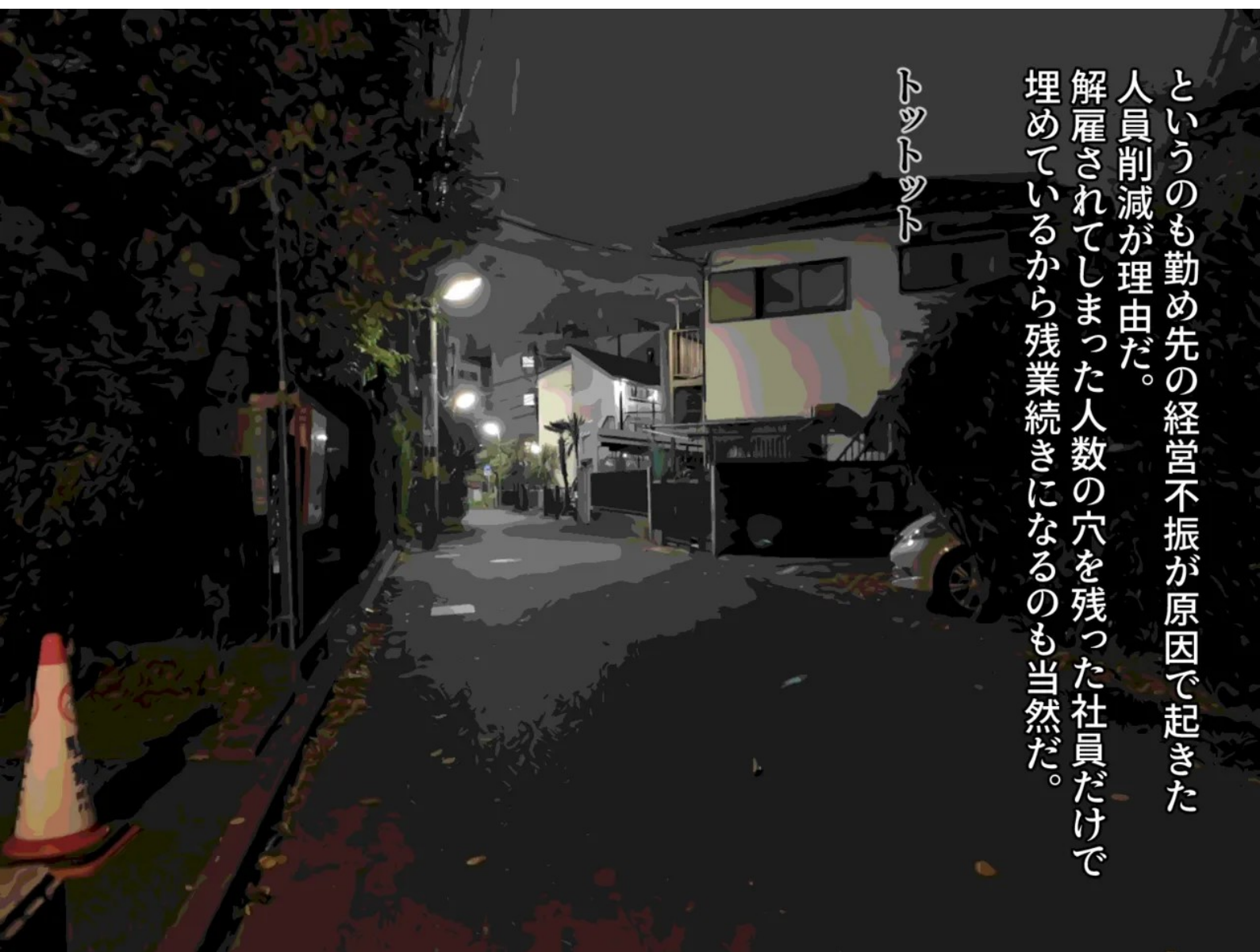
もう一ヶ月は日付けが変わる前に帰宅
できた記憶がない。



というのも勤め先の経営不振が原因で起きた
人員削減が理由だ。

解雇されてしまった人数の穴を残った社員だけで
埋めているから残業続きになるのも当然だ。

トツトツト



「このままじゃいずれ死ぬ…」





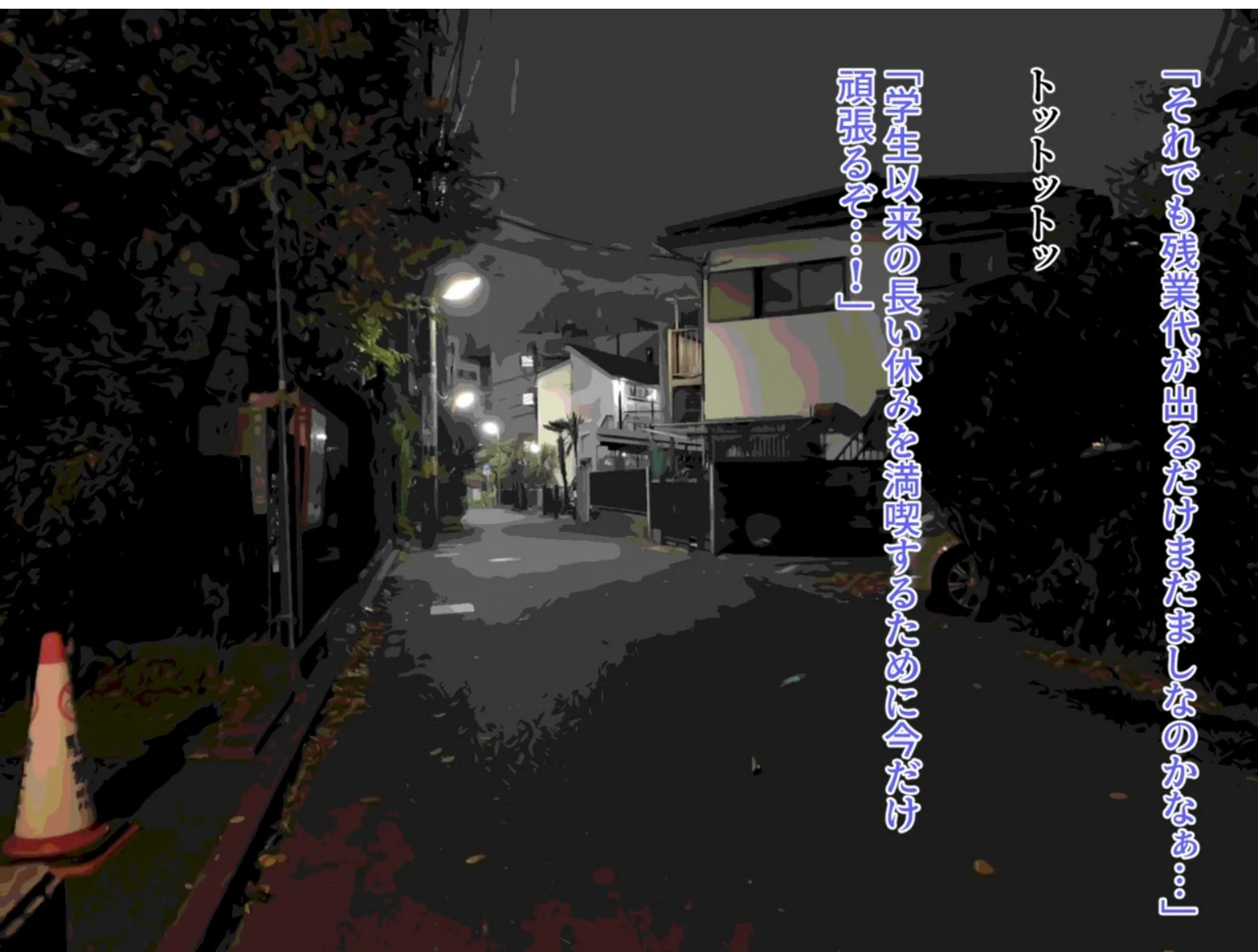
日々体力、精神の限界を感じる。


もちろんいつまでもこの会社にいるつもりはない。
もう少し頑張ってお金が貯まったら
キツパリ退職して貯金で忙しなく働かされた分
のんびり生活するつもりだ。

「それでも残業代が出るだけまだましなのかなあ…」

トツトツトツ

「学生以来の長い休みを満喫するために今だけ頑張るぞ…!」





今の貯金と会社の状況では
いつ退職できるのか見当もつかないが…。



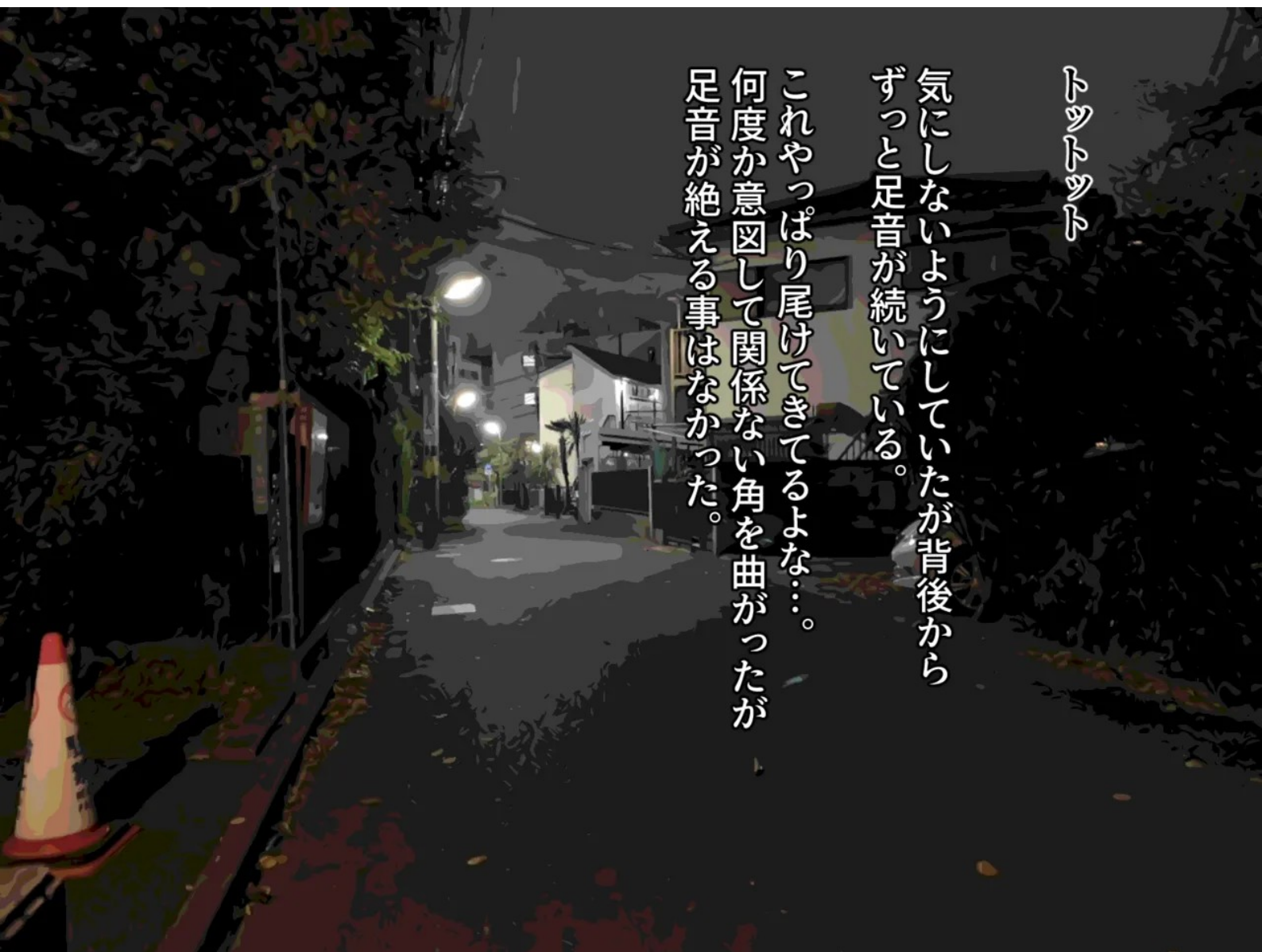
よし、さっさと帰って明日の英気を養うために
VR動画でシユって寝るぞ!!

VR動画は凄いなだ!
数年前と違って画質も向上して
綺麗な女優さんの顔のアップだけでシユれる
レベルまで進化してるからね!!

トツトツト

気にしないようにしていたが背後から
ずっと足音が続いている。

これやっぱり尾けてきてるよな…。
何度か意図して関係ない角を曲がったが
足音が絶える事はなかった。



いくら俺が男だからといえこうも尾けられると
ちよつと怖いなあ……。





トツトツト

スマホに通知が来た振りをして少し立ち止まろう。
俺はおもむろにスマホを取り出し立ち止まった。

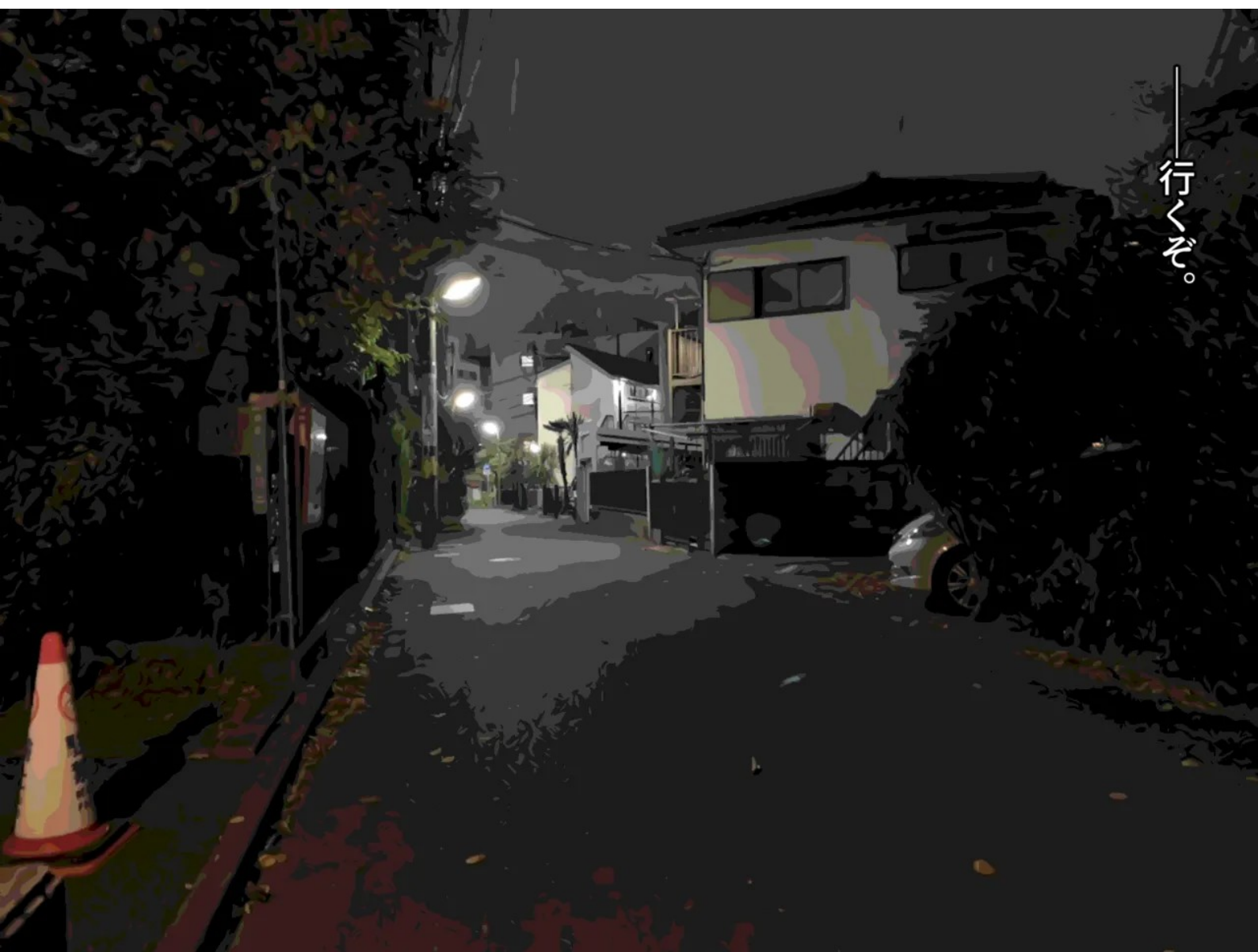
どうだ、ストーカーよ、どう出る？



トッ…

足音が止まった。
完全にクロだ。
振り返って声を掛けよう。振り返ってもし…
もし、本当に危なさそうな人だったら…。

その時は全力疾走で遠回りして家に帰ろう。



—
行くぞ。



「あ、あなた一体さっきからなんなんですか!?!?」

振り返り切るよりも先に思いの外
大きな声に自分でも驚いてしまった。

一体どんな野郎なんだ!?



って女の子!?

…しかも結構可愛い。

「こんな真後ろからずっと尾けて来て
何言ってるんだよ!？」

ごめんなさい!
ごめんなさい!!

お願いがあつて、
ただ…

「ただ…?」



やや幼い顔立ちに相應しい、
小ぶりなおっぱいが眼前に広がった。

「お、おっ……ん！」



ただ、おちんちん
シコシコしてるとこ

…見てほしくって

お、おちんちん…シコシコ…!?



この子は見ず知らずの俺を手コキするため
尾行けてきたのか…!?
なんて淫乱娘なんだ！（歓喜）

俺は日々頑張ってる。

これくらいの恵みに甘んじたって
罰は当たらないだろう。





「し、しょうがないなあ…！
でもこんな時間にそんな格好してちゃ
危ないしこれつきりで俺以外にはだめだぞ…！…？？」

は、はい！

ありがとうございます♡

くっ♡

くっ♡

ん…？なんかこの子の体おかしいぞ…
股間のとこ、すごい見覚えがある物体が…



「…ってちんこじゃん!!」

成る程…。

なんて淫乱野郎なんだ！(憤怒)





「なま…いぬんー!」

嬉しいなっ♡

ピクピク

「やっぱり、他の人に見てもらいなよ」

さっきは良いって…

?

きんぎょ…

?

それどころか、
あなた以外には
こんなことだめって…

「んないい言もなして…」





あなたがいいんです……

それに、

しゅん……

しゅん……

さっきまでの笑顔は消え失せ
一気に悲しそうな顔に変わった。

…ちんこもしぼんで心なしか悲しそうだ。

うう…

顔は良いもんだから悲しい顔されると
ちよつと罪悪感沸くな…。

「わかったよ！
じゃあここは通路だから人が通るとまずいから
近くの公園行くぞ！」



ぱあつと一瞬で明るい顔に戻った。
…ちんこも一瞬で膨張し喜びを共にしていた。

「きみのちんこ素直だね…」

ぎんでえす♡

「やかましいわ!」



それじゃあおちんちん
シコシコ見ててくださいね…♡

そう言ってベンチに腰掛け足を開いた。
そうして勃起したままの
ちんこにおもむろに手を伸ばしシゴきはじめた。



「俺はここに居るだけだからな…」

だめですっ…♡

「なんでえ…?」

約束は見てもらっこと
だったので…♡



「わかったよ…
でもちんこは抵抗あるから顔見てるね
顔は好きだから…」



顔を褒められて嬉しかったのか
オナニーしながら震えた。

ぼく、やっぱり…♡

かわいい…
ですよっ…♡

自画自賛しながらブツを
シゴく手を早めた。





かわいいって
言ってる♡♡♡

♡♡♡…♡♡♡

♡♡♡…♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

「可愛い」



ああ〜…♡

♡♡♡♡♡

実際、本当にかわいいと思う。

だが男だ……。

あの…♡
図々しいんですが…♡

言葉責め♡
してくれませんかあ…♡

ええ…。。



「変態」

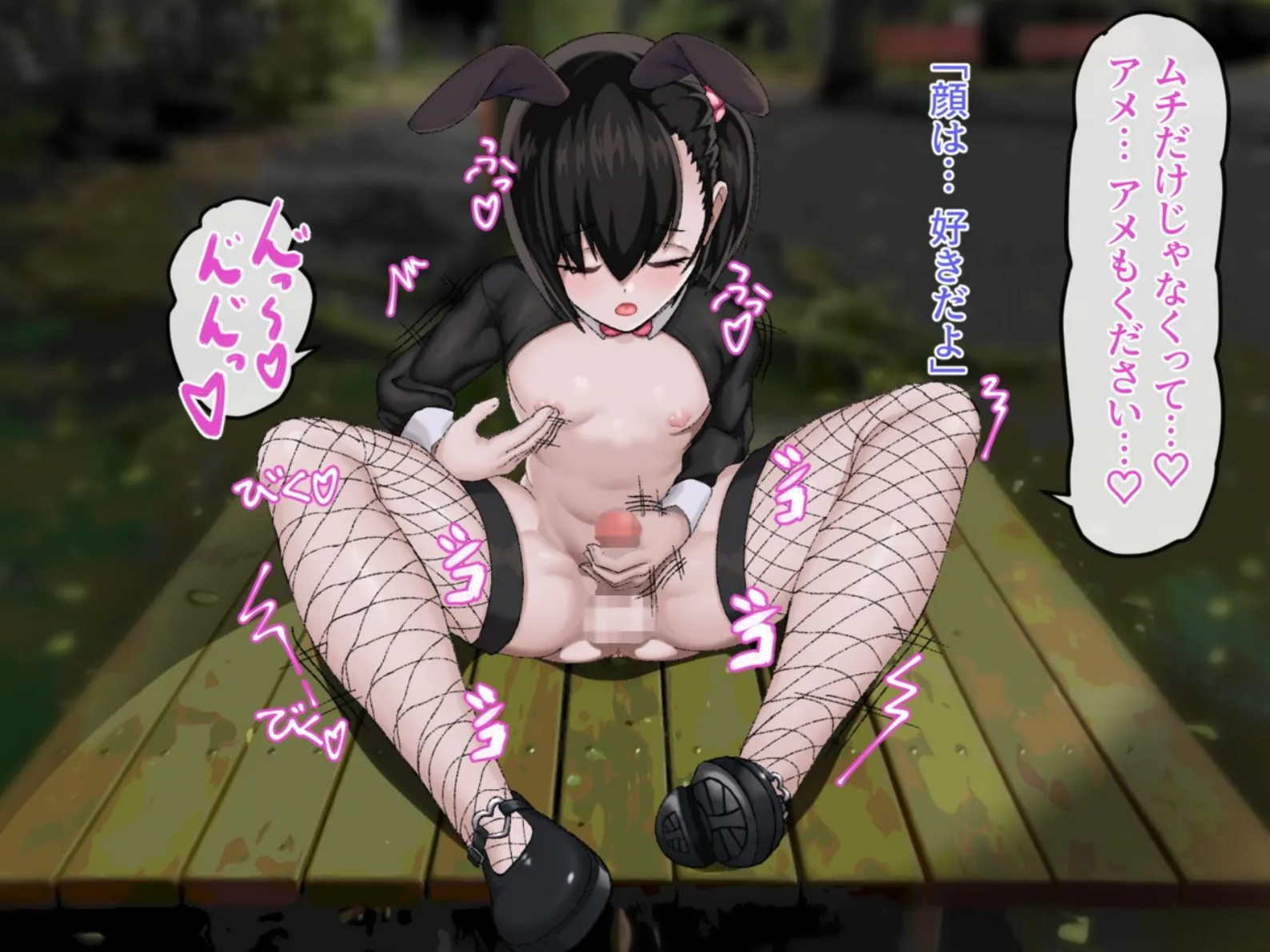
「こんな格好で外出るだけでも
やべーのに知らない男に声かけて
オナニー見てもおうなんて何考えてんだよ」



「その、きみ結構あたまおかしいよ...」

どんだんシゴく手が早くなる。
こんなのでいいのか…。





ムチだけじゃなくって…♡
アメ…アメもください…♡

「顔は…好きだよ」

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡



おっ♡
おっ♡

やばっ♡

もう射精ちやい
そうですっ♡

射精しちゃってもいいですか♡
白いおしっこ♡

びゅくびゅくしちゃって
いいですかっ♡

そう言うとおもむろに立ち上がり
さらにシゴク手を早めた。





はっ
はっ
はっ♡

おちんちん
シコシコ最高…♡

はっ♡

はっ♡

シコシコを越える
娯楽はありません♡

お兄さんも一緒に
シコっていいんですよ♡

シコ

シコ

シコ

はっ♡





やばっ♡
やばっ♡

はあ♡

きてるっ♡
射精ちゃうっ♡

びび♡

びび♡

びび♡

びび♡

びび♡

びび♡

びび♡

最後につ♡

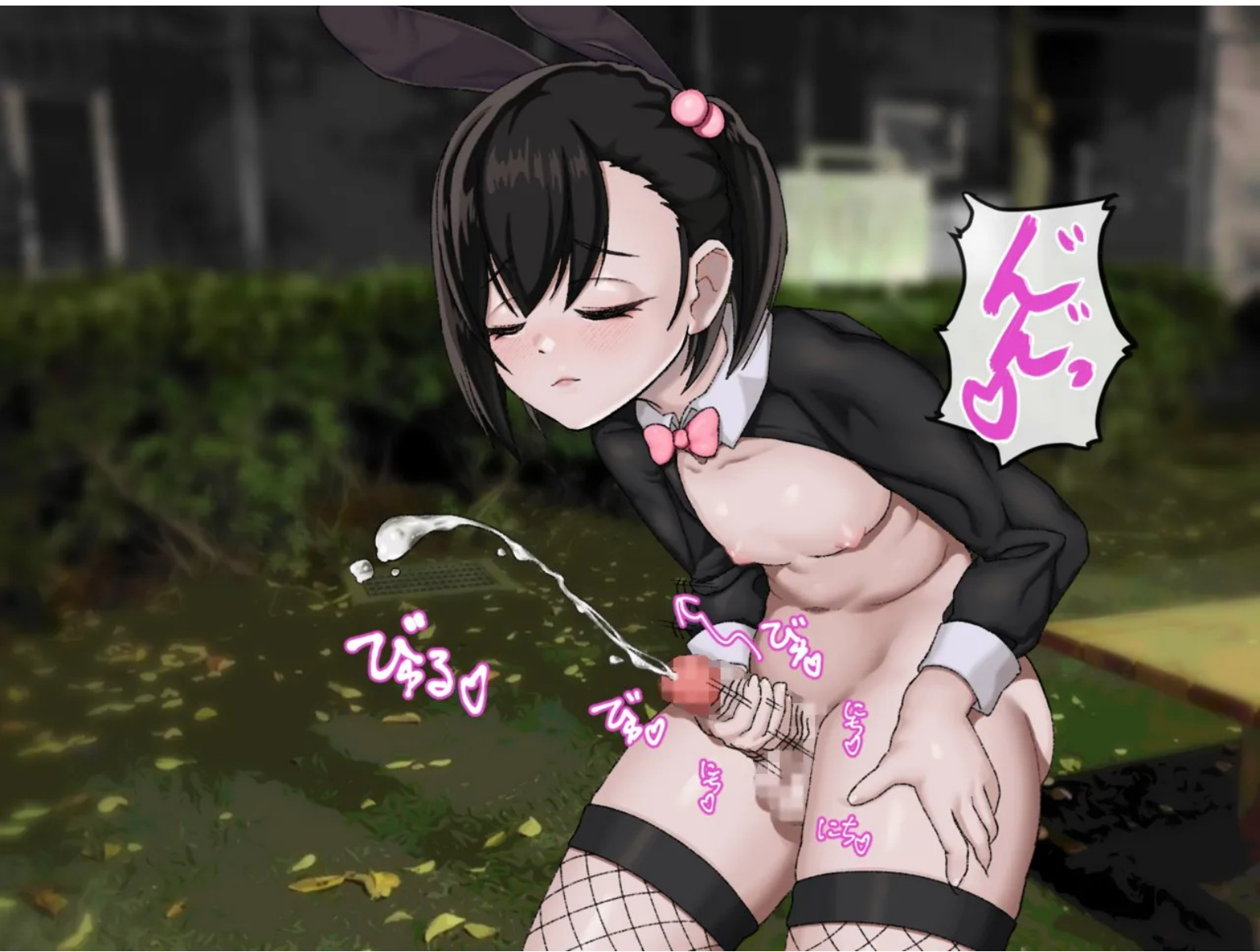
一言っ♡

あ♡

くださっ♡

「…変態」







はあーっ♡
はあーっ♡

最高に…♡
気持ちよかったです…♡

ありがとうございます♡
ごめんです…♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

無事に彼のオナニーショーは終わった。
初めて他人のオナニーを見たが
想像していたよりもずっと滑稽で、
自分も致す時は戸締まりはしっかりしないと
などとどうでもいいことを考えていた。

って俺の上着についでる液体ってさ……。



「あー、
精子上着に掛かっちゃったんだけど…」



俺は彼を見ていた。彼は俺を見ながら
シコってたから精液が飛散するのも当然ではある。

……精液の飛散が当然ってなんだ…!?



「普通でキラキラ」

それはぼくの愛の
マーキングってことで…♡



ごごめんささい
いまお財布持ってなくて…

その、今度クリーニング代
お支払いしたいのでRINNE交換
してくれませんか…？

露出狂とまた会わなきゃ行けないのか…
かといって自分のお金で他人の
精子洗い落とすのも絶対嫌だなあ。



「わかった、連絡してきてよ」

はい♡

ん...

「ってか露出狂で罵倒されるのが好きってとんでもないドMだね……」

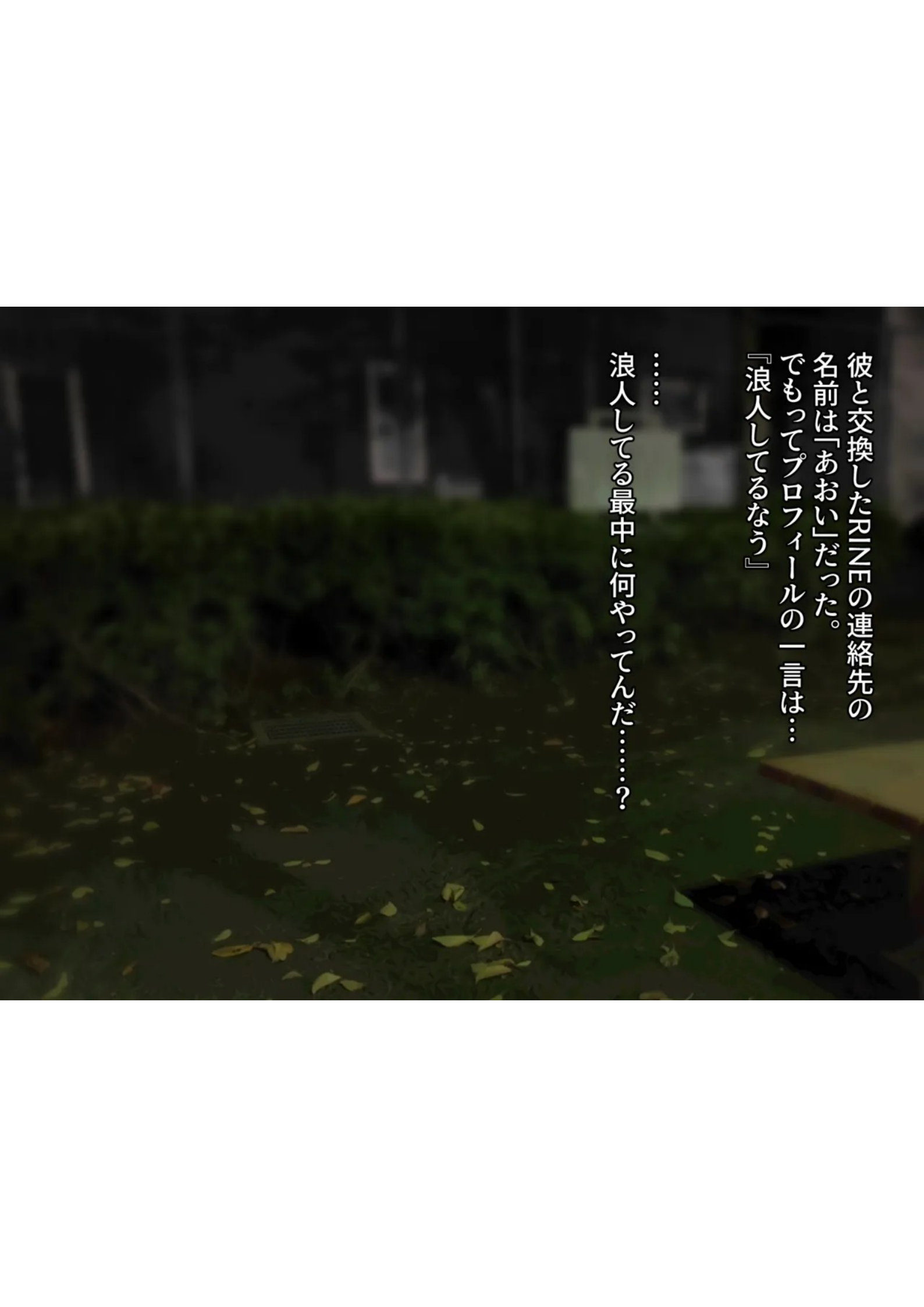
違います♡



見せつけたい派で
汚い言葉を吐かせたい
DSです♡

お、お、お……。





彼と交換したR2Zの連絡先の名前は「あおい」だった。でもってプロフィールの一言は…『浪人してるなう』

……

浪人してる最中に何やってんだ……？

その夜は予定のVRで致さずという訳か
露出狂のイキ顔を思い出しながら致した。

顔は可愛かったし度の越えた変態っただけで
根はそんなに悪い子ではなさそうだったな。

……男だけど。




あなたがいいんです……

それに、

俺は以前にあのひと
会ったことがあるのか……？



あれから数日経った。



あれから彼からの連絡はなく
夜道に行くわす事もなかった。
結局自腹でクリーニングに出した。

こっちが被害者とはいえ
浪人生にクリーニング代とはいえどもお金を
催促するのはなんとなく気が引けて切り出す
ことは出来ず放置していた。

クリーニング代、決して安くはなかったが……。



今日も遅い。
シロツメツメと寝よう。

ピロン

む、こんな時にスマホの通知音、
タイミングが悪いな……

送り主は例の露出狂からだった。

さてさてメッセージは……

『すみません遅くなりました。
クリーニング代の件です』

一緒に動画も送られている。
なんで動画なんだ…？

サムネから嫌な予感しかしないな…。



クリーニング代の件、
連絡が遅くなってごめんなさい♡

お詫びにぼくのアナニーも
見せてあげます♡

え、現金で返してほしいんだけど……。





アナルの拡張は
男の娘の嗜みですよね♡

ぼくのアナル、
開発済みなんです♡





もっとしっかり
見せたかったんですけどお♡

お尻で遊びすぎて
簡単に入っちゃいました…♡



デイルドで前立腺いぢめるだけでも
十分気持ちいんですけどお…♡

このままおちんちんも
シコシコしちゃいます♡



もうちょっと
アナルだけで...♡

ふーっ♡
ふーっ♡

んんっ♡

ちがうちがう
ちんぽちんぽ...♡

ちんぽ♡

ぬえ♡

ぬえ♡

ぬえ♡

ぬえ♡



オナニーさいごお...♡

ふうーっ♡
ふうーっ♡

はっ♡
はっ♡
いっ♡



あ、ごめんなさい♡
クリーニング代ですよね♡

いまから前の公園で
遊ぼうと思うので
来てくだささい♡

その時にお代を
お渡ししますね♡





ここでこの動画は終わっている。

良かった。

ちゃんと現金で払ってくれるんだ。

この時間にそんな激しいオナニーして

公園で落ち合おうなんて体力あるなあ。

っていか俺もう寝たかったんだけどな……。

前と同じバニー服(?)にピンクのコートを纏った姿で人気の失せた公園に立っていた。






「よし」

あ、
きてくれた！

「だって
クリーニング代ほしいもん…」



この前は
ごめんなさい……!!

そう言い茶封筒をコートから
取り出し両手で俺に差し出した。

「おお、わざわざ封筒に
入れてくれたんだありがとうね」


意外にも律義な一面に戸惑う。

用事も済んだしさっさと寝に帰ろう。

「そんなじゃ、わざわざありがとね！
気を付けて帰れよ〜！」

そう言い残し、彼に背を向け家に向かう。



A photograph of a park at night. In the foreground, there is a green and yellow metal structure, possibly a playground or exercise equipment. The ground is dark and covered with fallen leaves. In the background, there are trees and a building. The lighting is dim, with some light coming from a street lamp or building light.

向けた背中に引っ張られるような違和感を感じ
歩けなくなる。





公園で遊ぼうと思うのでって
言いましたよね♡

その遊び相手は
あなたですよ♡

うん♡

「やっほー...」



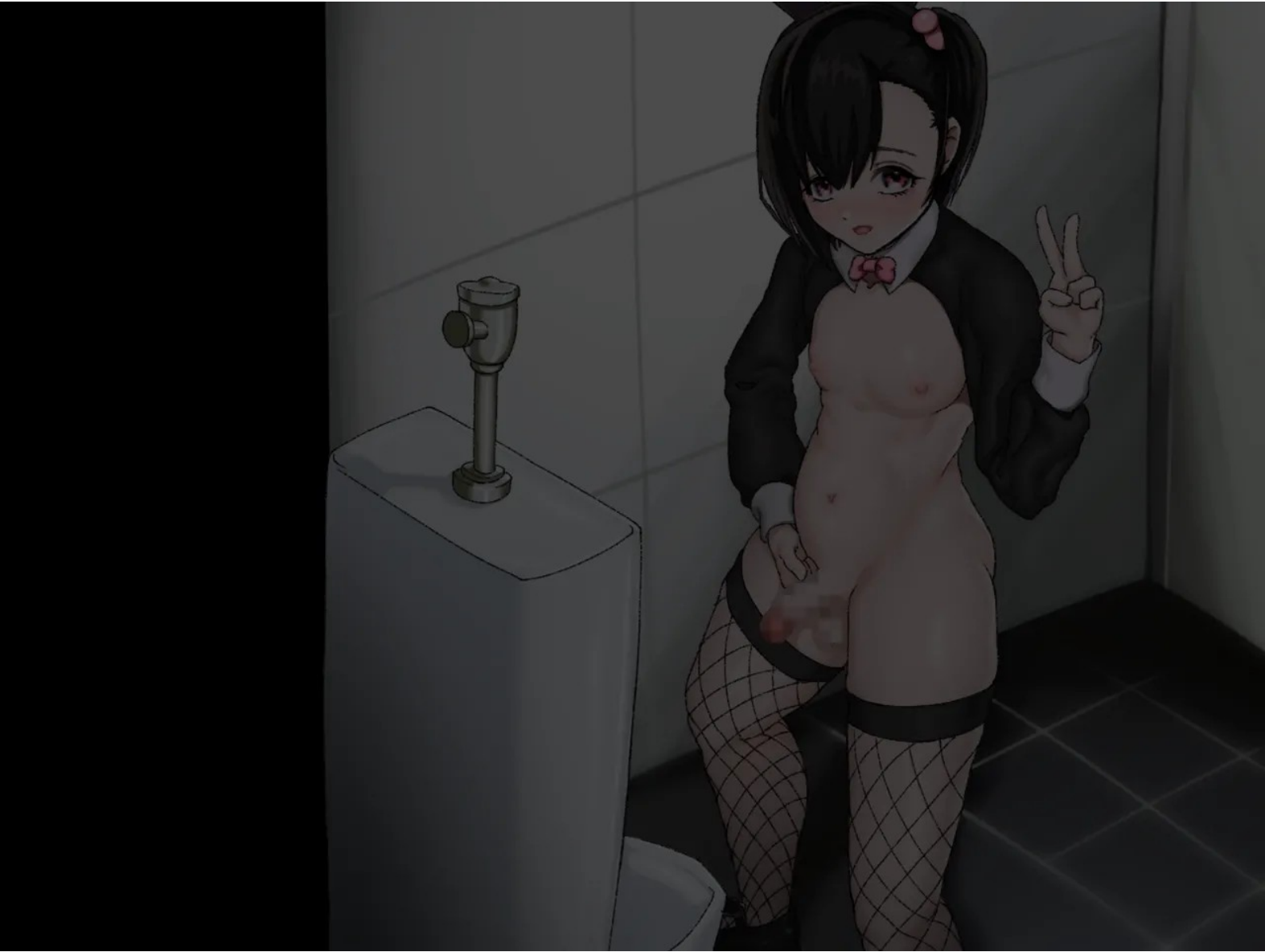
「またオナニーでしょ」

今日はしてみたい
ことがあって♡♡



公衆トイレで
見られながらのおしっこです♡

いえ、今回は趣向を変えて





美少女男の娘の
生おしっこシーン♡

いいですか♡
よく見ててくださいね♡

「おしっこも見られると気持ちいいの…?」

おしっこも精液も出てるところは
同じですからね♡

ちよつと納得しかけてしまった。





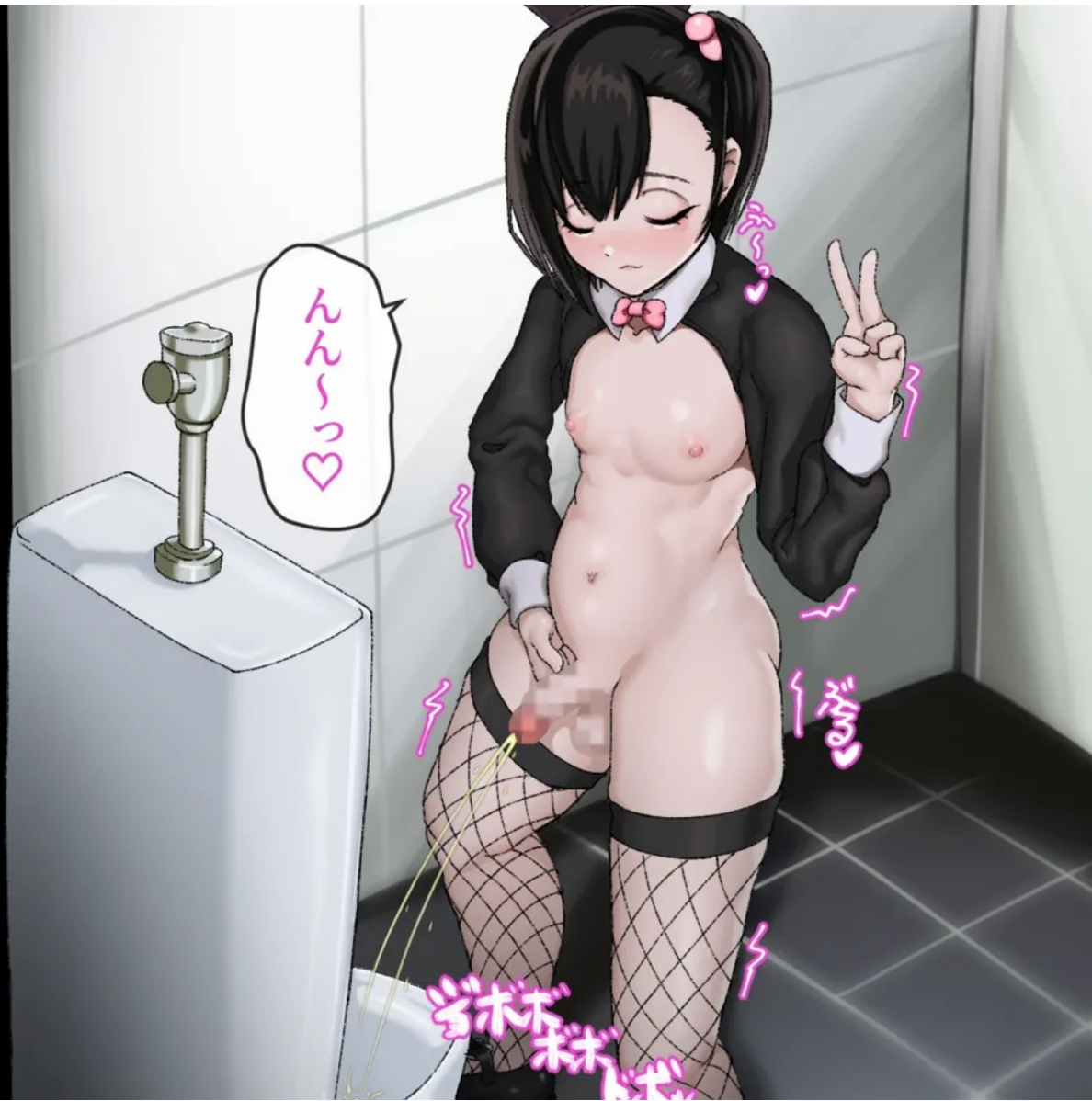
それじゃ本当に
出しちゃいますからね〜♡

3

2

1

??
/o
??



「じゃあ俺は帰るよ！
原因が君自身とはいえお金、ありがとね！」

ねえ、このまま
帰っちゃうんですか……？



「おうもう帰るよ！あしたも仕事だしさ
もう満足しただろ？」



見ると放尿時には通常サイズだったはずの
ちんこがいきり勃っていた。

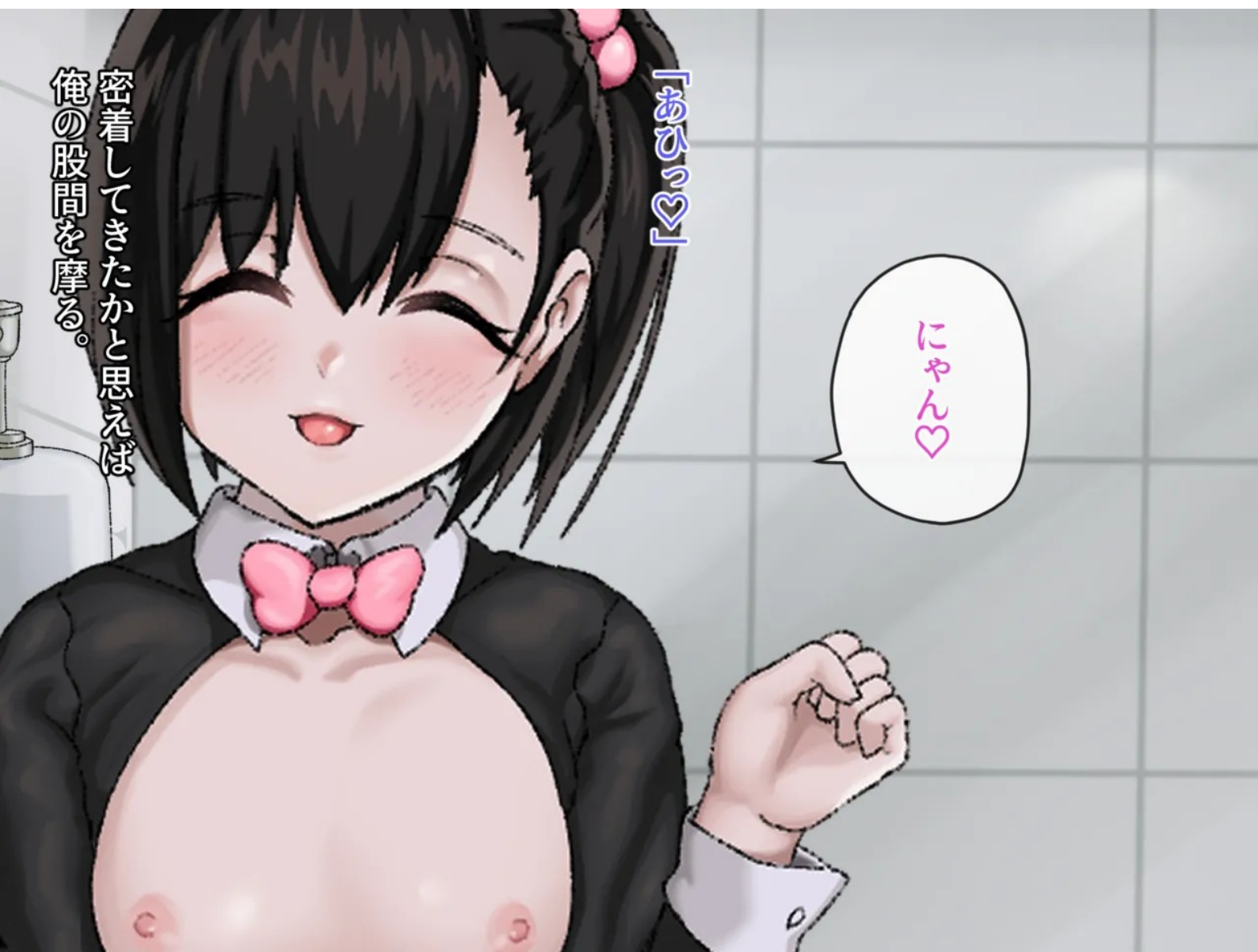
ほら……

ぼく、
さっきの公開おしりです。

「知らん!!俺は可愛くても
男とはエロいことできないよ」



そう叫んだのも束の間
彼はふとところに飛び込んできた。



密着してきたかと思えば
俺の股間を摩る。

「おっす♡」

にゃん♡

てか石鹸のにおいするね♡

もしかしてお風呂入ったのに
ぼくが呼んだからまた着替えて
来てくれたのかな…♡

「せ、正解です、概ね……」

耳元でささやかれながら股間を摩られついに……





「こんな生理反応のうちのーっだー!」

「ご、これは違う最近シコってなかったし、さっきまでシコろうとしてたからそれでっ」

ねえ、
おちんちん勃ってますよ♡



生理反応？

いま、あなたの
おちんちんが大きくなってる。

それが
全てですよ♡

はい♡

ね、あなたはさ、
なにもしなくていいからあ

おちんちん舐めさせて♡

「ほ、ほがっ」

露出狂は手際よく俺のちんこを
露出させしやがみ込んだ。



「お、おいなにして…」

ぽぽ







んじゅるるる♡
じゅぽっじゅぽっ♡

ひもちい？

「な、なんとも……っ」

じゅるるる♡
じゅぽっじゅぽっ♡

だまぽ

じゅぽ

びゅん

びゅん

びゅん




なんともなんだあ〜♡
その割にはさ、息、荒いけどね♡

「うん、うん」

んじゅるるる♡
じゅぽっじゅぽっ♡

ぽんぽんぽん
ぽんぽんぽん
ぽんぽんぽん



こいつ、男だけど顔が可愛いのはマジなんだよな。
こんな可愛い顔したコに
フェラされて気持ちよくないわけがない。

いや、顔だけじゃないこんなに
丁寧でエロくて気持ちいいフェラ初めてだ。

表情と吐息で全部わかるよ♡
ぼくのおちんぽ舐め気持ちいいよね♡

あなたは男とか女に
拘ってるみたいだけどさ、

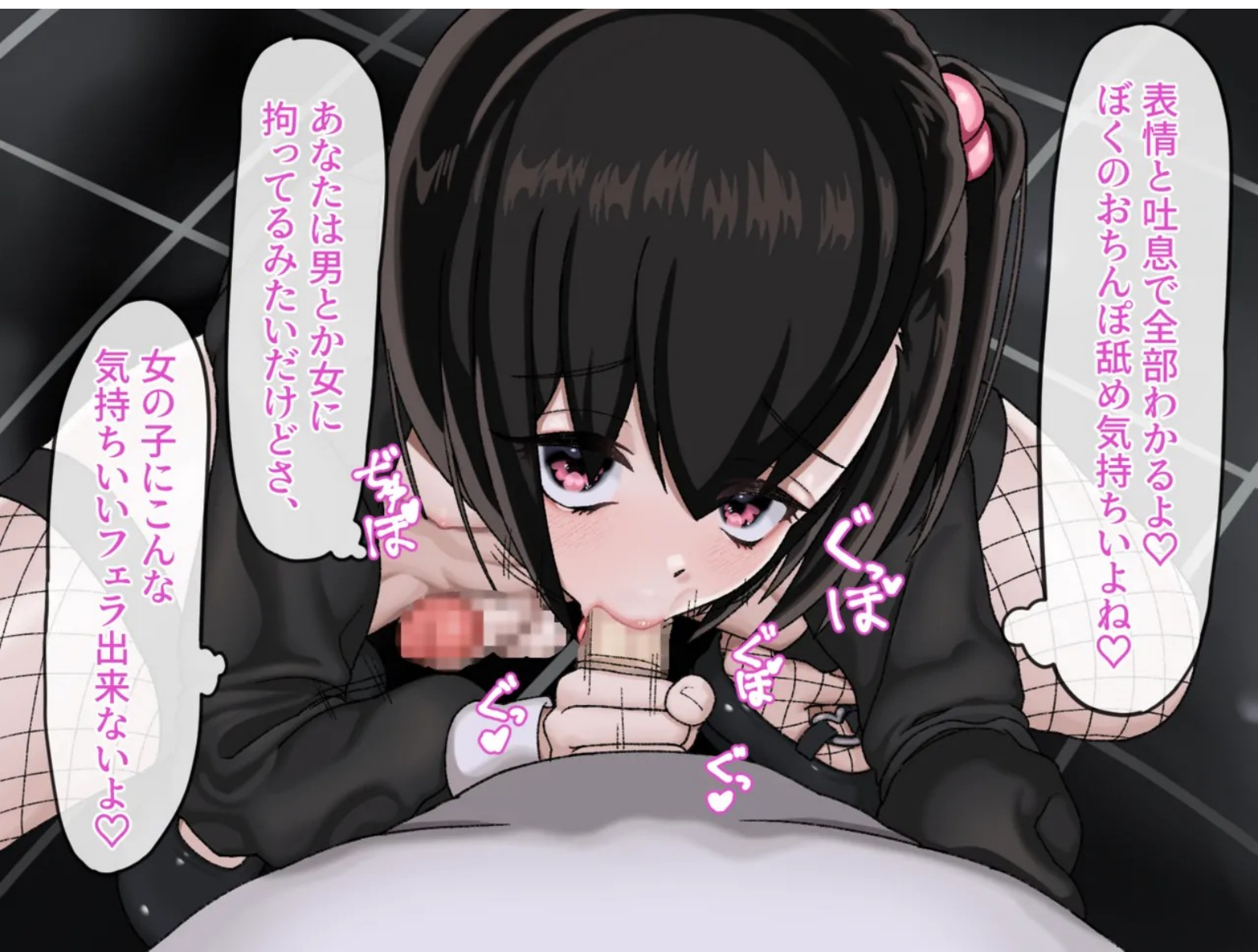
女の子にこんな
気持ちいいフェラ出来ないよ♡

ぐぼ

ぐぼ

ぐぼ

ぐぼ





じゅるるるるる♡
ぐぽっぐぽっぐぽっ♡

ぐぽっぐぽっ♡
じゅぽっじゅぽっ♡

ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ

「や、やぽっらっト……」

やっと言葉に
してくれたね♡

イクの我慢してるの
可愛い♡♡♡

ぐわんぐわん

ぞぼ

ぐわん

ぐわん

ぞぼ

ぐわん

ずぼ

俺が射精を我慢しているのを察したのか
露出狂はピストン運動を早めた。

はやく離れなければ彼の口の中に射精してしまう。

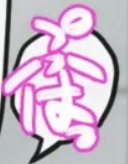


んっぷはっ…♡
いっぱい精液出たね…♡

んっ

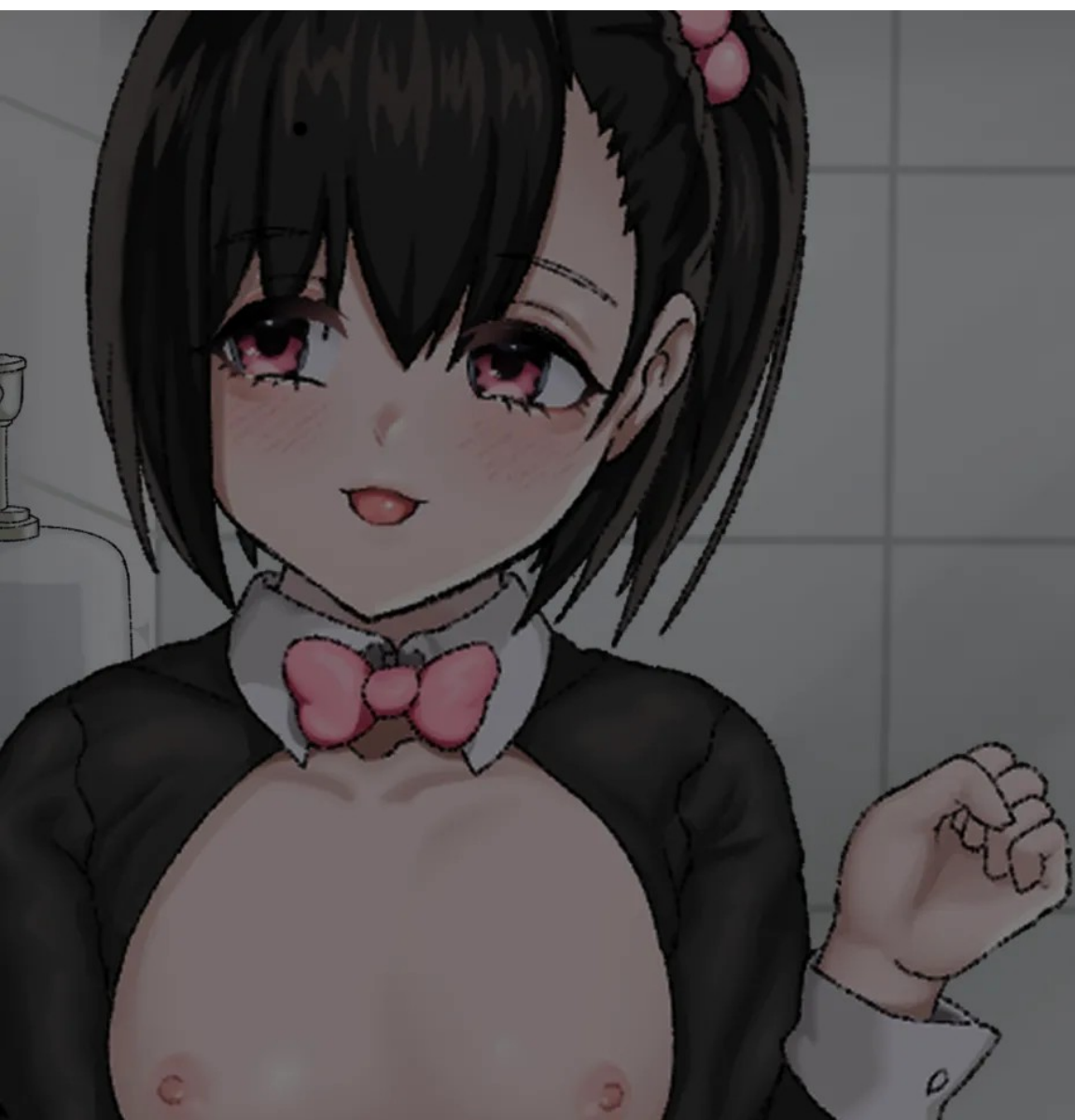


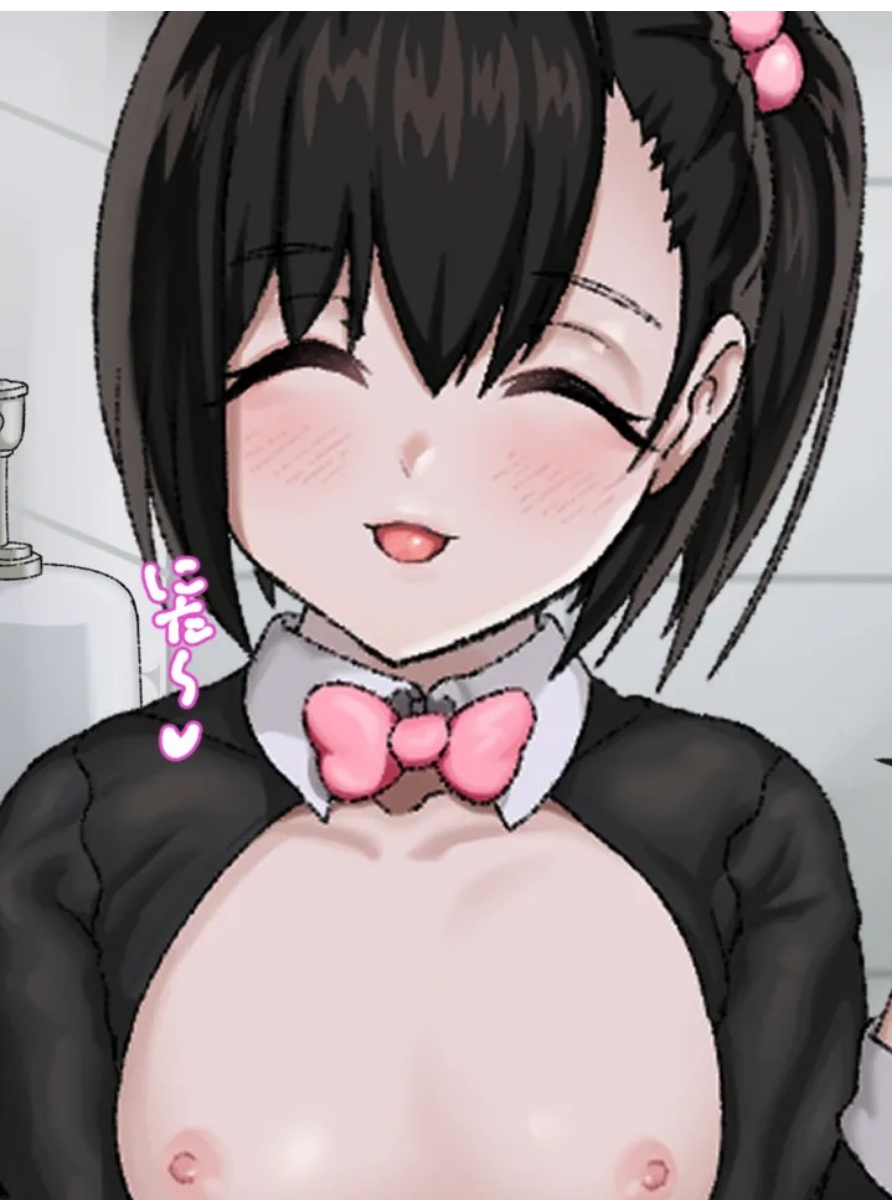
あなたの
精液飲んじゃった♡



なんて淫乱ビッチ野郎なんだ……!!

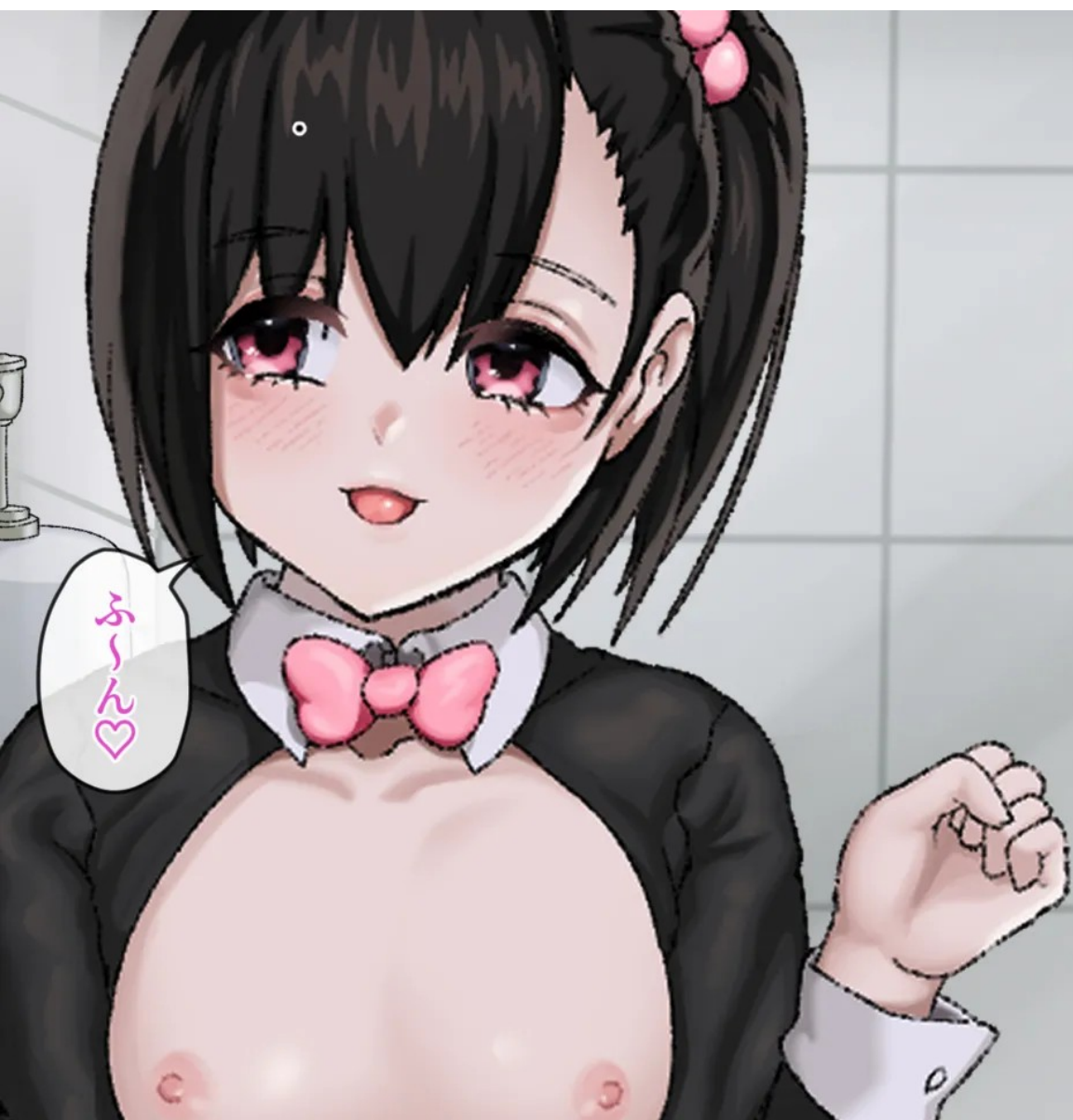
射精したばかりなのにまた下腹部が
熱くなってきてしまう。





おちんちん大きいまんまだよ♡
そのまま帰っちゃうのお………?!

「ありがとね…!?
でも俺、ほんとにもう帰るからさ…!」



「俺は快樂のために
一線を越えることは望んでない！
ほら見ろもう勃起も収まってきた……!!」

じゅるるるる♡
ぐぽっぐぽっぐぽっ♡

ねえ♡
ちんぽピンピンに
なっちゃったけど♡

「そ、そりゃ、舐められたら何回でも
勃起しちゃっとうって……!」

じゅるるるる♡
ぐぽっぐぽっぐぽっ♡

「わ、わかったよまたすぐ射精できると
思うから舐めていいよ」

舐めていいよじゃなくて
せめて、舐めてくださいでしょ♡

「な、舐めてください……」





「……。
な、舐めてください……」

うっそ♡
本当に言っちゃった♡



最初あんなに言ってたのにね♡
意志よわすぎじゃないですかあ〜？

でも、フェラはいいの♡

「どうしてくれるんだよ
この勃起したままのちんこ……!!」

あはは♡
そんなに射精したいんだあ……♡

「フェラされて勃ったちんこだ!
射精したいのは当たり前だ!!」





え

あなるセックス♡

次ねぼくが
したいのはね……♡



送った動画でぼくが
自分でしてみたいにね♡

あなたに犯して
貰いたいです♡

ぼくのある♡

そう言って彼は壁を突き出し
尻を突き出した。

一応あなたは男の娘に
抵抗があるみたいですし
強制はしませんよ……♡

10秒考える時間を
あげます……♡

10……9……
8……7……



こんな安い挑発に乗ってはだめだ、
いくら溜まってるとはいえ知り合っただばかりの
露出狂の、男の娘とアナルセックスなんて……





耐えられなかった♡

おおっ♡

びびっ♡

んっ♡

おん♡

えっちしてくれないの
かと思いました……♡

体位はバック。後ろから見たら完全に女……。
とどのつまりこのセックスはセーフ。





「ばん♡めんね……」

ふーっ♡
ふーっ♡

でもねお尻は急に
挿入れちゃだめですよお……♡

ぼく以外の男の娘には、
ですけどね……♡

ばん♡

ばん♡

その言葉がうらやましくなってしまった。

いま、ちんぽ
ビクッてしまったね♡

ばん♡
ばん♡

ばん♡
ばん♡

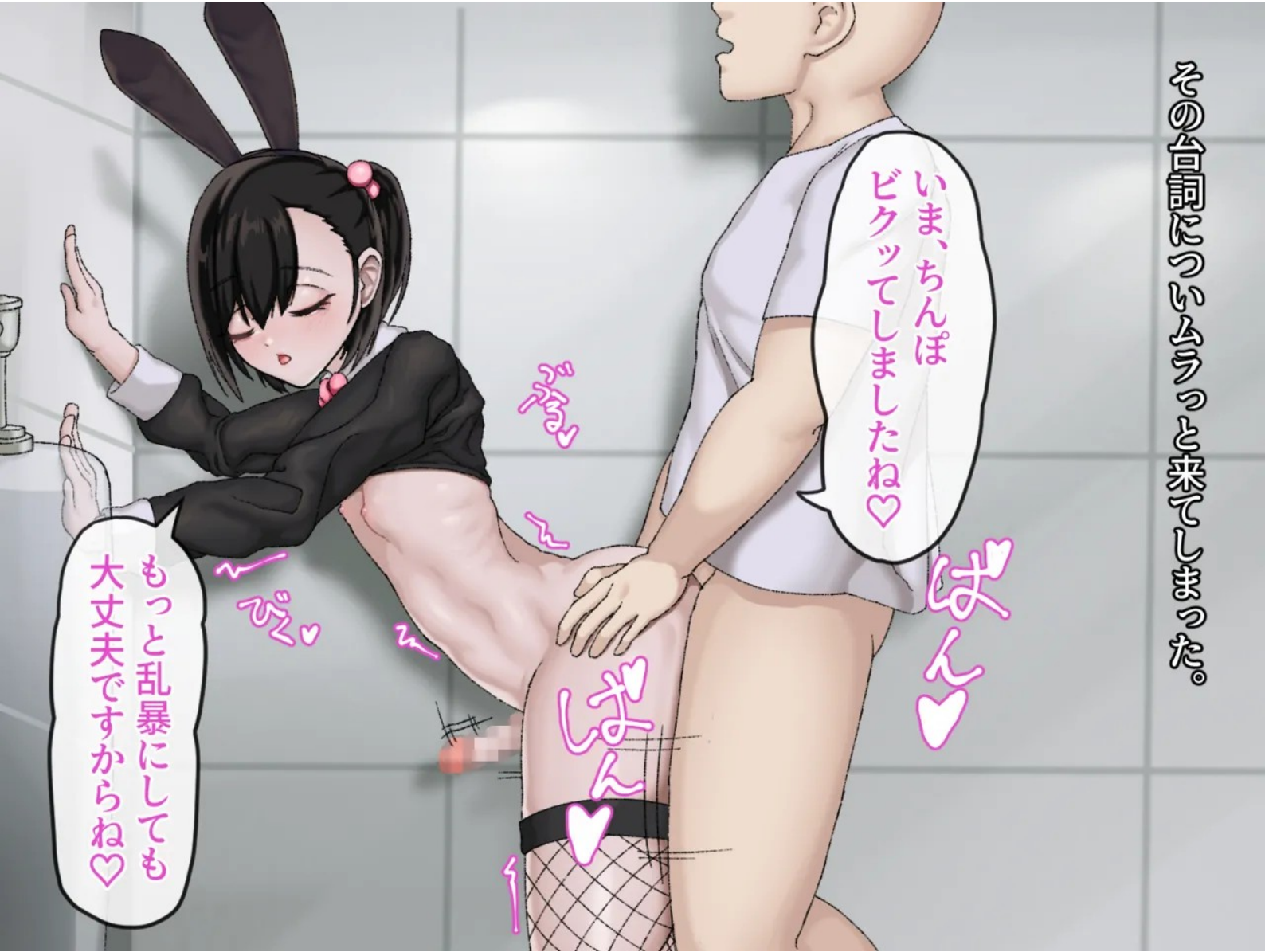
びく♡

びく♡

びく♡

びく♡

もっと乱暴にしても
大丈夫ですからね♡



あなるセックス自体は
したことあります？

「これが、初めて……！」

あなるも
気持ちいでしょう♡

「きもちい……♡」

抵抗はあったが女性器にはない締め付け感、
病み付きになりそうほどの気持ち良さだ。





「挿入れるよ」

おちんぽ
早くっ♡



もう関係ない。
この可愛いことのセックスを続けたい。
それしか考えられなくなっていた。

もうちんぽ見える体位でも
お構いなしだね……♡

あはは♡

ふくっ♡

んんっ♡
きてる♡♡♡♡

ぬえふ♡

ぐっ♡

んんっ♡





あなるセックスも
板についてきたね♡

やっぱりこの体位が
一番好きだなあ♡

ふーっ♡
ふーっ♡

ぬっ♡

ぬっ♡

同級生。

ははっ♡
ははっ♡

ねえ♡
もっとぼくをみて♡

ぬん♡

ぬん♡





「可憐」

みつめてっ♡
目を見て犯して…♡

もっ♡
もっ♡
もっ♡
もっ♡

やーん♡
うれしい♡

ぬっ♡

ぬっ♡



息荒くなってるよ♡

もうイキそう
なんだ♡

いいよ♡

このまんま男の娘
ケツまんこに中出しキメて♡

「いいのか?」

ぬん♡

ぬん♡

♡

♡

♡



大丈夫だからっ♡
中で出してっ♡♡♡♡

あっ♡
あっ♡

いいよっ♡
射精してえっ♡

「もっ♡
射精そっ♡」

ぬっ♡

ぼんっ

ぬっ♡



「締め付けやばっ
あっ射精るっ♡」

あっ♡はあっ♡
射精てるっ♡♡♡♡

アナルう〜♡
ぎゅっぎゅっ締めてあげる♡

ううっ♡おくっ♡
おしつけえ♡やば♡

ぬんっ♡

ぐっ♡

びんっ♡

どろっ♡

ずっ♡

おんっ♡





すっごい
気持ちよかったよ♡

「俺も、めっちゃくちや
気持ちよかった……」

セックス
さいごお♡

ね♡ね♡
気持ちよかったね……♡

ふっ♡

ふっ♡

とっ♡

びっ♡



「……きみって浪人してるの？」

え、
どうしてそれを……

って、あゝ
プロフに書いてたもんね……

触れられて困る事を書き込むな！
一瞬複雑な顔をしたがすぐに笑顔で答える。





「そっか、大変だな…！」

結構いい大学目指してるから
次もちよっと怪しいんだよね…

にや

大学受験
失敗しちゃった！





「?どうした??」

ねえ、
それはいいんだけどさ……



「……ん?」

ぼく、お兄さん、
ほんとに好きなんです……

僕と付き合ってください。

「ま、待ってくれ！
付き合ってるって言われても……」

ても……？

「その俺は、やっぱり男とはさ……」

どうして駄目なの、
かな……？




「だって同性じゃさ、上手く行っても子供とか、世間体とかあるからさ……」

よく考えずにパツと口に出した言葉を後悔する。折角好きだと言ってくれた彼を傷つけてしまう心無い発言だったかもしれない、とすぐに気づききく。

「そ、そのいぬ」





子供って女性でも
産まなきゃいけないわけじゃ
ないよね♡

いくら他人の目を気にしてても
二百年は生きられないんで
やめちゃいました

そういらっの♡

怒ってる様子もなく笑顔で答えてくれた。
少しずれているが彼の器の大きさを実感し、
少し好きになってしまおうには十分な答えだった。
さすがに露出ストーカーはきにしてほしいが。

「……そうだな！ごめんね」

それにさ……♡





「お、お、可愛いな〜」


「……!?」

ぼくってさ
可愛いじゃん?

……強い。

そもそも可愛いんだから
小さいことなんて
どうでもよくない？





今日も遊んでくれてありがとう、
びっくりさせてごめんね！

ぼくからは、さ、もう連絡しないから、
告白の返事とか何か話があったら呼んでよ！

すぐ行くからさ！



「なあ最後に！前さ、
あなたがいいんですって言うてくれたよな！」

「俺と君会ったことあったかな？」

「ないです♡」

「ええっ!？」

よく近所のスーパーで見かけてさ、
疲れてそうなときでも店員さんに
レジでお礼言ってるよね♡
絶対良い人だって気になっちゃって!!





また会えたら…
嬉しいなっ!!

やっぱり良い人だった!

そう言って手を振りながら走り去っていった。

あんな理由でちんちん見せられちゃ
たまったもんじゃないな……。

でも案外人って見てくれてんだな。

出来て当たり前前の称賛されない日々を送っていた
ものだから少しの誉め言葉でも満たされた
気になってしまう。

自分に正直に行動する彼に久しぶりに
人間の「生」の部分を見た気がした。



「なんかよくわかんないけど
頑張らなくちゃな……!!」

二週間後……。

あれから彼とは会ってないし連絡も取っていない。
だが、彼のことを考えない日は一日もなかった。

今まで自分のため、会社のために生きてきたんだ。これからは自分の事を想ってくれる人のために生きてみたい。

俺だってそれなりに良い大学の出だ。

受験勉強で支えられることはいくらかあるはずだ。慕ってくれる彼のため彼だけの家庭教師になろう

そう思い立ってとうとう退職へと踏み切るに至った。


もちろん会社の経営問題もあって残留を

せがまれ説得等に時間は掛かったが

とうとう仕事をやめることができた。

最後に会ってから既に一月が経っていた。

働きながらも受験教材に目を通し勉強の感覚も
いくらか取り戻していた。

A night scene in a park. In the foreground, there is a playground structure with yellow and green bars. The ground is dark and covered with fallen leaves. In the background, there are trees and a building, illuminated by a street lamp.

満を持していつもの公園から
彼、あおいに電話をかけた。

「え、めちゃくちゃ久しぶりだね！」

会いたい旨を伝える。

彼が以前言っていた

「何か話があったら呼んでよ！すぐ行くからさ！」

この発言は社交辞令ではなく直ぐに話が決まり、
たった今かこの場所で落ち合うことになった。

連絡してから二十数分であおいは公園に到着した。
だが……。

久しぶりだね♡



中々の寒さの中彼はいつもと同じコートに
バニーの姿で現れた。もちろんブーツも
チラ見えしている。

…

これからちよつと真面目な話をしようって時に
こんな格好で来るやつがあるか…??

…

今年の受験もダメかもしれないなあ…。





……もう、
会ってくれないのかと思った

久しぶりの再開に彼は優しく微笑む。

ねえ、寒いしさ、
ウチ、来る……？



.....やっぱり寒いんじゃないか!

やはりいつもの公園は彼の家とは
そう離れていなかった。

彼は意外にも綺麗なマンションに一人で住んでいた。
部屋の様子もあまりに綺麗でまるでフリー素材の
ような部屋だった。



あおいが珍しく真剣な顔をする。

それで、
話って何かな？

真面目な表情も出来たのかとやや驚いたが
そのいつになく真っ直ぐな瞳を見つめ、こう返した。

「俺と、付き合ってほしい」



空気がピタリと止まる。

あれから一か月も経った、こっちの勝手な思いで
相談もせず今日ここに辿り着いた。
もう、遅かったのだろうか……。






言い切るよりも先に飛びついてきた。

嬉しい！
大好き！！

…嬉しい



選んでくれて
ありがとう!!

「……よせやん」
つつら照れる。

抱き返しながらこれからのプランについて話す。

「これからさ、俺が君の家庭教師をするよ」

え!?

戸惑うのも無理はない、基本帰りの遅い俺だ。
それでは教えられる時間も限られている。

—だから

「大丈夫だ。日中も教えられるように
会社もやめてきた」

ええ

!?!?



戸惑うのも無理はない。
一か月前までは彼との交際を否定気味だったのだ。

そうなんだ……！
ありがとね……！！

でき、
会社辞めてもらったのに
ごめんなんだけど



学力だけなら志望校、
全然イケそうな感じなんだよね今………!!

「おおっ!? ええっ!? すごいじゃん………!!
おめでとう………!!」

………ありがとう!!

「そ、それじゃあ、」



「ただ無職が誕生しただけってこと……!??!」

そういうことになるのかもしれないね……!!

「うーん、そっかあ……まあいんだけどさ!!」



え、
なんかごめんねっ！

「いや、いらつていらつてー！」

ほんとごめん！ 頭叩いてもらえる!?
馬鹿になれるかもしれないから！

「その発想がもう馬鹿だよ！」



勝手に自分が大学にいれてやろう
なんて考えてて傲慢だったな！

この一ヶ月余り、自分だけが苦勞して成長した
気になっていたのを深く恥じた。


俺たちはそのまま抱き合って
しばらく笑いあった。





そうやってコートを脱ぎ陰部をあらわにした。

ねえ、
えっちしょっか……♡

A pregnant anime-style girl with black hair in pigtails and bunny ears. She is wearing a black long-sleeved top with white cuffs and a pink bow tie. She is holding a glass of red liquid. The background is a living room with a sofa, a lamp, and a framed picture on the wall.

ちよつと待つてね
ゴム用意するから

そう言い背後の棚に体を向けた。

ケツでつか!!!!!!
これがほんとに男のケツなのか……



あった
あった
あった♡

アナルもヒクついておしりも柔らかかそうで
あと1分1秒も我慢できない。

ズリ
ズリ

ズリ





えっ!?

【……！んんん！】



おまじ!?

ぬはん♡

ぬえ

♡♡

ほん♡

「……うめん!!」

そう思ってたんなら
腰止めなさ〜い!!

♡♡♡



「うう…ごめん気持ちよすぎて…」

もうばかあ…♡

君も気持ちいい？

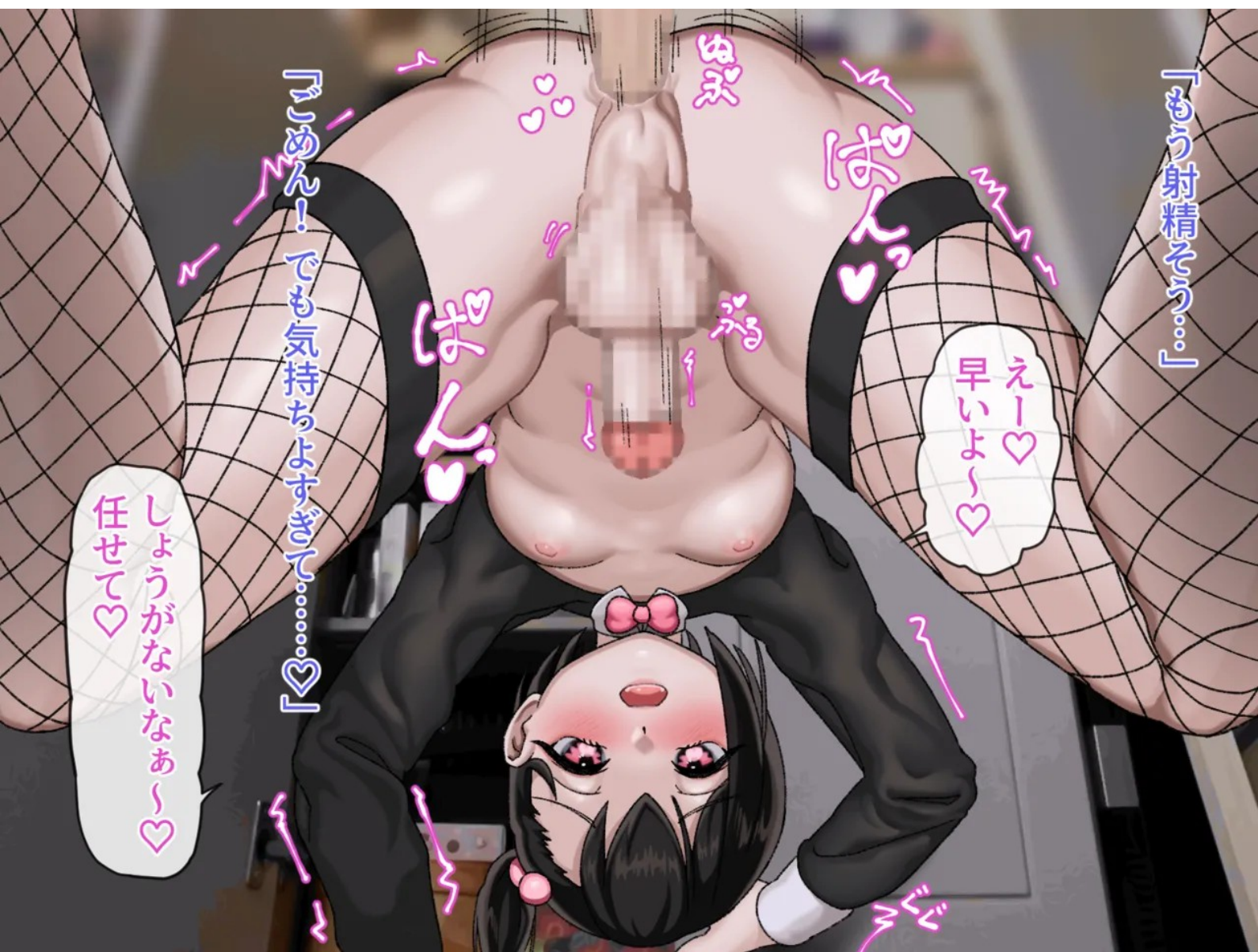
「あおいの中気持ちいよ……♡」

ぼん♡
ぴん♡

ぼん♡

♡

♡



「もう射精そう…」

えー♡
早いよ♡

「いぬーでも気持ちよすぎて……♡」

しょうがないなあ♡
任せて♡

ぬえ

はん♡

はん♡



途端にアナルの締め付けが強くなった。

「こんな事もできるの!?!
これほんとにやばいってえ……」

んんん♡

ぼん♡

びん♡





「射精る!!」

ぼくもイクから……!!
腰打ちつけて……♡
全部射精してっ♡♡♡

ほえ
おえ
たほん
たほん
ほん
ほん
ほん
ほん



射精しすぎだよ♡♡♡

じゅわん...
じゅわん...
じゅわん...

ふる
ふる

ふる
ふる

ふる
ふる





ね♡
もうお仕事辞めたんでしょ♡

受験勉強は大丈夫だしさ、
ゆっくり前よりいい会社
一緒に探そうよ♡



いい♡



おわい!

帰り道で出会った
露出狂ストーカー男の娘♡



言葉責め♡
してくれませんかあ

彼の目的は自らのオナニーを
見せつけることだったが……♡



次第に行為はエスカレートしていき♡

いいですか♡
よく見ててください♡

あっ♡
あっ♡

中で出している♡♡♡♡♡

男の娘に抵抗を
見せていた主人公も

このままセーエキ
出ているはらっ♡

っいれ♡

自らセックスをねだるように♡

露出狂

露出狂ストーカー
逆バニー男の娘浪人生。
長いのは肩書だけでちんぼの長さは
14cmと一般的な大きさである。

主人公のことがひよんなことから
気になってしまいつきまとい行為を初め
オナニーを見せることでコンタクトを
図る見せつけたい派のSの変態。

明るいとこを嫌うが吸血鬼などではなく、
常にコートの際間からちんぼが見えている
からという多少の罪の意識からである。





露出狂

男叭娘